

# 苗木の植え方・育て方マニュアル

このマニュアルでは、桜を植えるポイントから始まって、苗木の植え方・育て方について、作業項目ごとに記載しています。また季節ごとに必要な作業が年間管理表を見ることで分かるようになっています。

なお、2年目以降の管理や病害虫防除の時期については当会のホームページ上で「桜の植え方・育て方」マニュアルを公開していますので参考にしてください。

桜を育て、名所をつくるためには、苗木を植える前の計画・準備と、植えてから5年間の管理が非常に重要です。

このマニュアルを参考にいただき、皆さんが植え、育てた桜によって、美しく華やかで、潤いのある、後世に残る桜の名所がつけられることを願っています。

## 目次

### I. 計画及び準備

- 1.桜を植えるポイント(成育に適した場所)..... 2
- 2.桜を植えるポイント(土づくり)..... 2
- 3.桜を植えるポイント(植える間隔)..... 3

### II. 苗木の植え方

- 1.苗木の保管 ..... 4
- 2.台木にあった植え方 ..... 4
- 3.植え穴..... 5
- 4.実際に植えてみよう ..... 6.7
- 5.桜の樹齢別年間管理表 ..... 8
- 6.ソメイヨシノをてんぐ巣病から守ろう ..... 9

※この冊子の著作権は公益財団法人日本花の会に帰属します。無断転載を禁じます。

公益財団法人 日本花の会

事務局 TEL 03-3584-6531 結城農場 TEL 0296-35-0235

FAX 03-3584-7695 FAX 0296-35-3385

ホームページ <http://www.hananokai.or.jp>

## I. 計画及び準備

### 1. 桜を植えるポイント（成育に適した場所）

1) 日当りを好む：桜は日当りのよい場所を好みます。日がよく当り、まわりに障害がない場所を選びましょう。日陰の場所ではうまく育ちません。

2) 土地を選ぶ：水はけがよく適度に湿り気があり、肥沃な土地を選びます。水捌けの悪い場所、地面が固い場所、養分が少ない場所などでは植える前に十分な土壌改良が必要です。

### 2. 桜を植えるポイント（土づくり）

#### 土壌改良を必要とする場所と改良方法

1) 水はけの悪い場所：雨の上がった翌日も、土に溜まった水が引かない湿った場所は、過剰な水分が地面にたまって桜を植えても根腐れなどの障害を起こして、根が腐敗してしまい、桜を植えてもよく育ちません。

○ 調べ方：

桜を植える予定地に 30 cmの穴を掘り、その穴の上まで水を入れます。

1 時間経過しても穴の中に水がたまっている場合は水はけの悪い場所と考えてよいでしょう。

○ 改良方法：

暗渠排水を設けるか、盛土をするなど排水対策をとって植える必要があります。

2) 地面が固い場所：踏み固められたりして地面が固い場所では、根が伸びることが出来ず、桜を植えてもよく育ちません。

○ 調べ方：

直径 1 cmの園芸用支柱を地面と垂直に立て、両手で持って強く地面にさし込みます。

50 cm以上ささらない場所は固い場所と考えてよいでしょう。

○改良方法：

植えた桜の根が伸びることが出来るように直径 2m、深さ 0.7mの範囲を掘って地面をやわらかくします。

3) 土の養分が少ない場所：地面が固くないのに生えている草の葉色が黄色味を帯びていたり、草丈が低い場所は、土の養分が不足しており、桜を植えてもよく育ちません。

○改良方法：

植えた後での土壌改良は難しいので、植える前に完熟堆肥や肥料を施しましょう。

4) マサ土の場所：関西で多くみられる土に、花崗岩が風化して出来たマサ（真砂）土と呼ばれる土があります。マサ土は養分が少なく、乾燥しやすい性質をもっています。また一度踏み固められると硬くしまりやすく、水はけが悪くなります。つまり、1) 水はけが悪く②地面が固い③土の養分が少ない、桜には向かない場所となります。そのため、特に土壌改良を十分に行う必要があります。マサ土はきちんと土壌改良すれば桜が育つ場所になります。

### 3. 桜を植えるポイント（植える間隔）

1) 桜は大木になる：植える苗木は小さくても、将来大きく成長します。



左の写真のような、高さ 1m 位の 1 年生の接木苗木が、5 年後には右の写真のように、樹の高さ約 4 m、幅約 3 m になり、美しい花を咲かせます。

### 2) 十分な間隔を開ける：



植える間隔が適正であれば、大きく枝を広げ、健全に育ち、ボリューム感ができます。

一般的には 10m 間隔 で植えるとよいでしょう。



植える間隔が狭い場合や建築物や他の木との距離が短い場合は、過密状態になり、病害虫も発生しやすくなります。

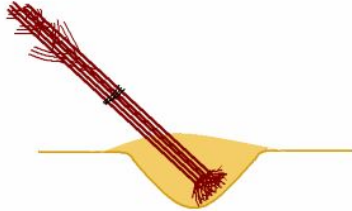
## II. 苗木の植え方

### 1. 苗木の保管

当会から送られた苗木をすぐに植えられない場合は、次のようにして保管してください。

1) 苗木到着後 1 週間以内の保管：箱を開封して、中の苗木の根が乾燥している場合は、根を水で湿らせてから再度密閉し、雨のあたらない日陰や温度の上昇しない倉庫などで保管します。

2) 苗木到着後 1 週間以上の保管：苗木到着から 1 週間以上植えられない場合は、根を水に浸した後に下の図のように仮植して下さい。



仮植方法の一例

根の周りにしっかり土が密着するように十分にかん水する

3) 保管しておいた苗木を植える前に：植える前に、根を水に 3 時間～ひと晩程浸してから植えましょう。苗木の活着が良くなります。

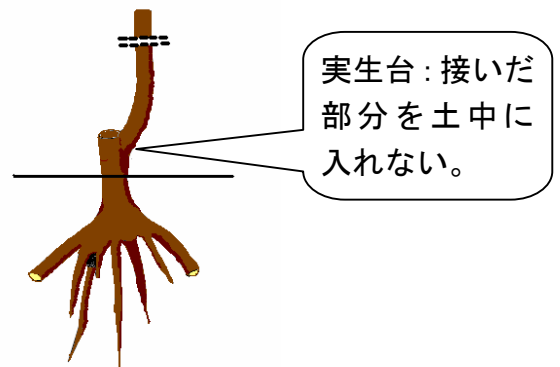
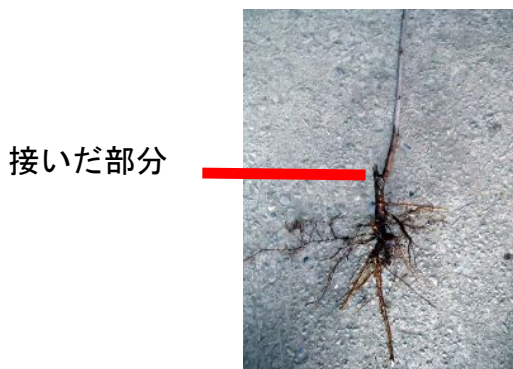
### 2. 台木に合わせた植え方

桜の苗木は一般的に接木で生産されます。接木とは台木（根となる部分）に増やしたい桜の芽や枝を接いで増殖する方法です。台木には種から増やした実生台と挿し木から増やした挿し台が使われていて、台木によって植え方が大きく異なります。

苗木の根の形状を下の写真と照らし合わせ、使われている台木にあった植え方を行って下さい。

#### 台木による根の違いと植え方の違い：

##### ①実生台の苗木



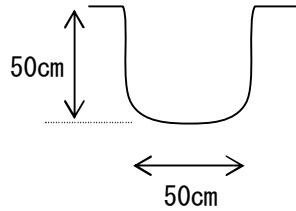
##### ②挿し台の苗木



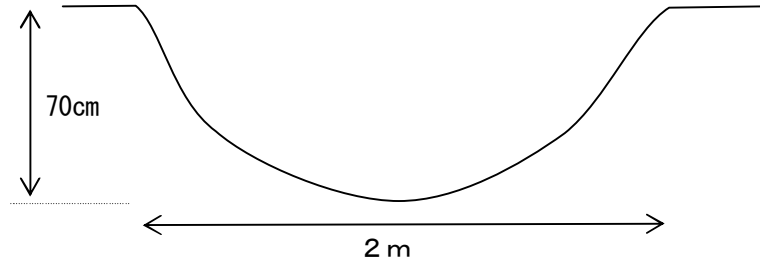
### 3. 植え穴

1) **植え穴の大きさ**：苗木の植え穴は直径、深さ共に約 50cm を目安に掘ってください。水はけの悪い場所、土が固い場所、土の養分が少ない場所、マサ土の場所など、土壌改良が必要な場所は、直径 2m、深さ 70cm 以上掘りましょう。

標準的な場所での植え穴



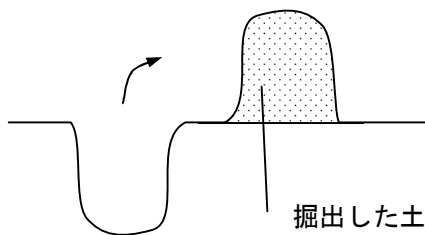
土壌条件の悪い場所での植え穴



2) **植付け客土や完熟堆肥の施用方法**：植え穴に良質な客土や完熟堆肥などを入れ、掘り出した土とよく混ぜて埋め戻して下さい。

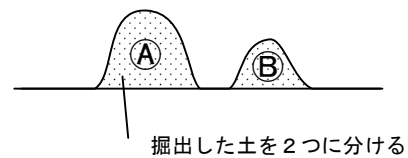
※土壌改良が必要とされる場所は必ず実施してください。大きな植え穴の場合も下図と同様の要領で行ってください。

1. 植え穴を掘ります。

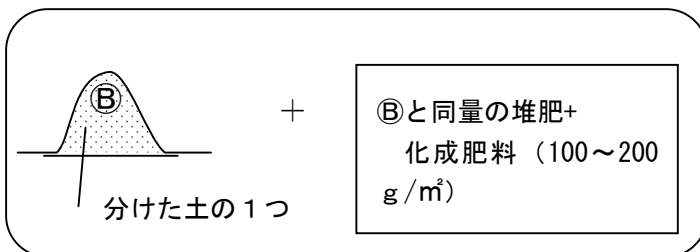


2. 掘り出した土を①=6 : ②=4 ぐらいに分けます。

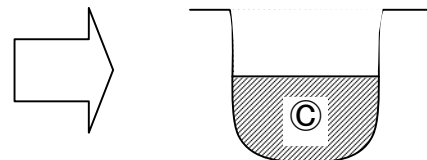
① : ②  
6 : 4



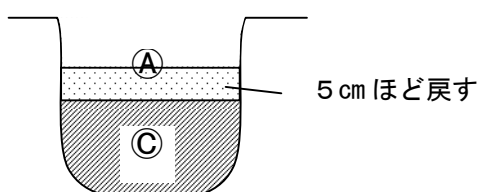
3. 図のように掘り出した②と同量の堆肥と化成肥料（N-P-K 10-10-10）100~200 g/m<sup>2</sup>位を混ぜ合わせ、掘り出した穴に埋め戻します。



②と同量の堆肥+  
化成肥料（100~200  
g/m<sup>2</sup>）

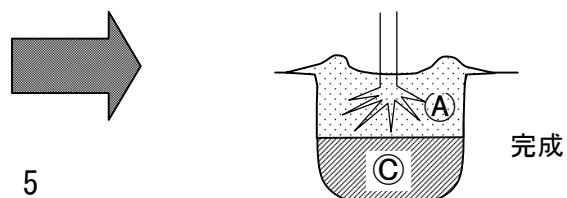


4. ③を埋め戻した上に、約 5cm 埋まるぐらいの土①を植え穴に戻します。



5 cm ほど戻す

5. 最後に苗木を立て、掘り出した①土を埋め戻します。



5

完成

#### 4. 実際に植えてみよう

1) 植える時期：落葉期の11月中旬～12月上旬、または2月下旬～3月中旬。但し、厳寒期は避けましょう。

#### 2) 植え方の手順：

- (1) 植える苗木を準備する。※植える前に3時間～ひと晩、根を水に浸しましょう。
- (2) 植え穴を掘る。
- (3) 植え穴の中心に支柱を立てる。(軽く押して倒れるようではいけません) 写真①
- (4) 植え穴に苗木を入れ、土をかける。写真②
- (5) 支柱と苗木を結束する。写真③
- (6) 水鉢を作り、水を入れる。写真④
- (7) 完成。(根元にワラなどを敷くと乾燥防止になります)

※その後の灌水は基本的に必要ありませんが、夏場に乾燥しているときは、1週間おきに夕方、水鉢一杯になるまで水を与えます。



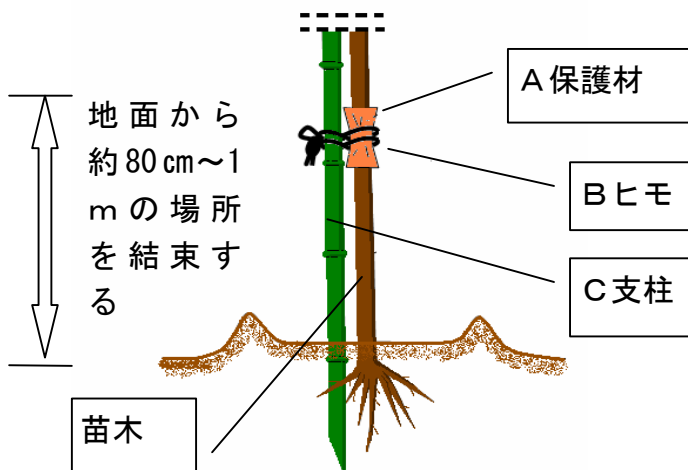
#### 3) 支柱

(1) 支柱を立てる理由：

- ・ 成育を補助する：支柱は、植えたばかりの苗木が強風などでゆすられて倒れてしまったり、せっかく新しく伸びた根を切ってしまうたりしないように、自分自身で支えられるようになるまで成育を補助するものです。
- ・ 樹形をつくる：シダレ性の品種や河津桜など枝が横に広がりやすい品種は、支柱を添えて芯となる枝を誘引すると、短期間で樹形を整えることができます。
- ・ 管理上の目印：植付け時の位置を示したり、夏の草刈り時には支柱が目印となり、誤って苗木を傷つけてしまうことが避けられます。

(2) 方法及び材料：

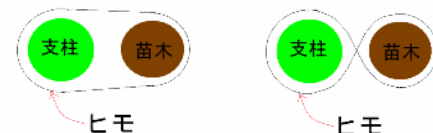
支柱に必要な材料A、B、Cは図の箇所に使用します。






[支柱と苗木の上から見た結束の様子]

①悪い例

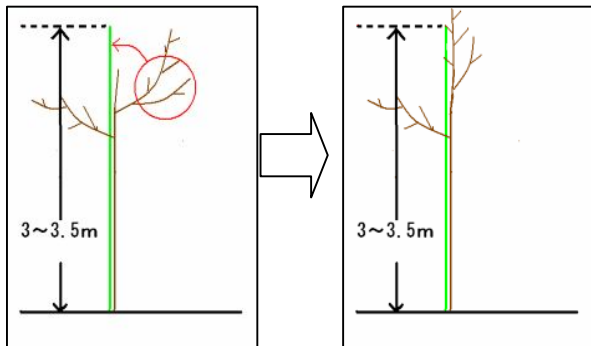
②よい例



①の絵の様に結ぶと苗木と支柱がこすれあって苗木が痛んでしまいますので、②の絵の様に結び目の状態を8の字にヒモを結びましょう。

<p><b>A. 保護材</b> 支柱やヒモと苗木がこすれて起こる傷付の防止に杉皮や布などを苗木に巻き保護します。</p> 	<p><b>B. ヒモ</b> 麻縄など1~2年以内で分解するものを使いましょう、ビニールヒモなど腐らないものは不可。</p> 	<p><b>C. 支柱</b> 長さ 1.8~2.4m ほど、シダレ性品種は4m ほどの竹や園芸用支柱など。</p> 
---	---	--

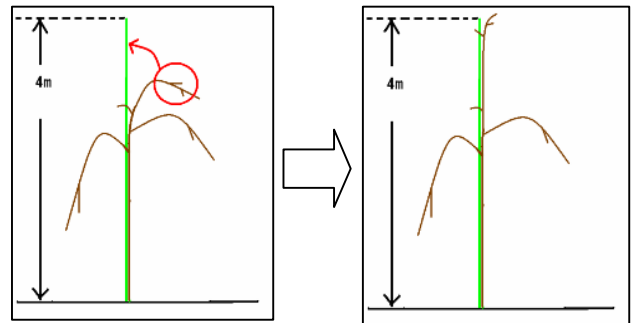
[枝の誘引方法]



河津桜などは、枝が横向き～斜め下向きに伸びるため、樹形を整えるために枝を誘引します。

(3) 注意点：

桜は8月下旬頃から急激に幹が太るので、時々巡回して、結び目のヒモの食い込みやヒモの緩みすぎを手直しして下さい。



シダレ性の品種は名前の通り、下向きに枝が伸びます。そのため、樹形を整えるために枝を誘引します。

①ヒモが食い込んでしまった幹



②ヒモをはずすと幹がくびれてしまっています。台風などの強い風を受けると、ここから折れてしまったり、病害虫が侵入する可能性が高くなります。



### 5.桜の樹齢別年間管理表

樹齢	月	4			5			6			7			8			9		
	作業内容	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1年	計画・準備	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	植栽																		
2年～5年	施肥																		
	除草	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	整枝・剪定						■	■											
	害虫防除					■	■			■	■					■	■		
	病害防除								■	■	■								
6年以降	施肥																		
	除草	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	整枝・剪定						■	■											
	害虫防除					■	■			■	■					■	■		
	病害防除								■	■	■								
	てんぐ巣病																		
	健康診断	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

樹齢	月	10			11			12			1			2			3		
	作業内容	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1年	計画・準備	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	植栽					■	■	■							■	■	■	■	
2年～5年	施肥								■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
	除草	■	■	■	■	■	■												
	整枝・剪定						■	■			■	■							
	害虫防除						■	■											
	病害防除																		
6年以降	施肥								■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
	除草	■	■	■	■	■	■												
	整枝・剪定										■	■	■	■	■	■	■	■	
	害虫防除						■	■											
	病害防除																		
	てんぐ巣病					■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	健康診断																		

■ 作業する時期



## 6. ソメイヨシノをサクラてんぐ巣病から守ろう

サクラてんぐ巣病はタフリナ菌というカビの一種の病原菌で発生する病気で、罹った枝は多数の小枝を発生しながら大きなかたまり（写真①）となり、枝は花が咲かず、健全な部分が開花している時に小さな緑の葉が開いてくるので、花時の見映えが非常に悪くなります（写真②）。

この病気の枝について小さな病葉の裏側に病原菌の胞子がつくられ、花が散り終わった頃から飛散し、やがては枝全体に伝染します。（写真③）しかも、罹った桜を放置しておくとなんらかの伝染源となって他の桜に広がっていきます。病気に罹った枝は数年間で枯れて、その部分から腐朽菌が侵入し、枝や幹に腐朽が進むため桜の樹は著しく衰弱していき、やがては枯れてしまいます。（写真④）



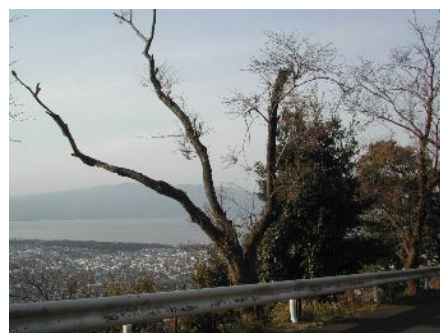
①落葉期の状態、小枝が多く出て玉状になっているのが分かる。



②開花時期のてんぐ巣病、病気に罹った玉状の枝によって、桜の美観が損なわれる。



③枝全体に伝染した落葉期の桜の様子。



④病気の桜は著しく衰弱し、やがて枯死してしまいます。

### 1) 発生しやすい場所

風通しと日当たりの悪い場所・湿度の高い場所・密植している場所

### 2) 防除方法

現時点では薬剤での防除方法が確立されていないため、病巣部を切除するしか有効な対策はありません。作業は落葉期間中に行います。1度の除去作業では取り残しなどがあるため、最低2～3年間は継続して除去作業を行うことが重要です。

### 3) 予防方法

桜の中でもソメイヨシノは感染しやすい品種なので、周辺にこの病気にかかった桜がある場合にはこの品種を避けることや、病巣部の切除作業が出来ない場所には植えないことも一つの方法です。